



# 最新切抜きトピックス

## ビールテイスト飲料の時代！？

今月からトピックを担当することになりました、**岡井**と申します。何卒、宜しくお願い  
今回は、今話題のビールテイスト飲料(ノンアルコールビール)についてです。

### ビールテイスト飲料とは？

このビールテイスト飲料、明確な定義はありませんが、香り・味わい・のど越しなどの要素をビールに似せた気を持たせたりした、アルコール分は含まないか特定の数値未満(日本では酒税法の分類によってアルコール分は酒類とならずビールテイスト飲料に該当する)に調整した炭酸飲料を指します。ヨーロッパではかなり前から製造され愛用され、ちなみに日本でも、ビールが高級品扱いだった大正時代頃の「ノンアルコール」が流行した事があった様ですが、技術や材料不足で悪質品が多く流通してたそ

### どんな製造方法？

ひとくちにビールテイスト飲料といっても、製法は様々。

#### ①ビールからアルコール分を除去する方法

日本国外産の輸入銘柄で多数採用されていますが、日本国内では法的な要因でこの製法を採用する困難となっています。

#### ②ビール製造と同様に麦芽を糖化させホップを加えて煮込んだ麦汁をベースに、酵母菌は入れず不純物除いて炭酸やその他の成分を加える方法。

キリンフリー、キリン休む日のAlc.0.99%、サントリーオールフリー、サッポロ プレミアムアルコールフリー

#### ③麦汁を使わずに麦芽から取れる麦芽エキスにさまざまな成分を加える方法

アサヒダブルゼロ、サッポロスーパークリアなど。

その他時にアルコール分の濃度を低く抑えて1%未満に調整したものや、清涼飲料水を使用してビール風を表現したものがありますが、主流は①～③となっているようです。

### マーケットの動向

このビールテイスト飲料市場、ビールが4.1%減と15年連続マイナスとなるなか、昨年20%程度伸び今年も10~20%の伸びが期待される貴重な成長市場。

価格は350ml缶では140円前後で、第三のビールとほぼ同じ。

但し酒税は0で、約28円が課税される第三のビールより利益が大きくなることも、各社が力を注ぐ理由。**11年のシェアトップは、約50%を占めるサントリー**。次いで約37%のキリン、約10%のサッポロと続です。

今後の動向はというと、2010年の発売から3年でトップブランドに成長したサントリーの「オールフリー」今年も19%増を計画している。

一方、パイオニアのキリンは、「ビール代替飲料から日常の飲まれる飲料へ」をコンセプトに「フリー」を米国でのテスト販売を踏まえ、海外への輸出も検討する。サッポロも「プレミアムアルコールフリー」を2011年より発売し、前年比1.7倍の計画を打ち出す。4社の中で最後尾に位置するアサヒは、巻き返しのために「ド」に発売する。しかし、他社の首脳が揃って「スーパードライ」に似ているとして誤飲の危険性などを指摘が起死回生を期す新商品は、良くも悪くも話題を集めての船出となっています。

**以前は、味的にはイマイチ感がぬぐえない「ノンアルコールビール」でしたが、熾烈な各社の競争によって、今後は味もよくなっていくでしょう。ビール類市場、今後も注目です！**



いたします。

せたり、その雰囲気  
ンコール分が1%未

代末期に代用品と  
うです。

ことは

物を取り

ー」など。

風の味付け・風味

がたほか、

の一つです。  
く。アサヒは第4位

ー」が抜けており、

リニューアル。  
2月にリニューアル  
「ライゼロ」を2月  
ししており、アサヒ

の激的な  
!